九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

Hybrid and Conventional Endoscopic Submucosal Dissection for Early Gastric Neoplasms: A Multi-Center Randomized Controlled Trial

江崎, 充

https://hdl.handle.net/2324/6787475

出版情報：九州大学, 2022, 博士（医学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：© 2023 by the AGA Institute. Published by Elsevier Inc. This is an open access article under the CC BY-NC-ND license.

氏　名：　江崎　充

論文名：　Hybrid and Conventional Endoscopic Submucosal Dissection for Early Gastric Neoplasms: A Multi-Center Randomized Controlled Trial

（早期胃上皮性腫瘍に対するハイブリッドESDおよび従来法ESD：多施設共同無作為化比較試験）

区　分：　甲

論　文　内　容　の　要　旨

背景と目的：内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)を技術的に容易にするために、ESDと内視鏡的粘膜切除術を組み合わせたHybrid endoscopic submucosal dissection（H-ESD）が開発されている。本研究は、サイズの小さな早期胃上皮性腫瘍（EGN）に対するH-ESDが従来法ESD（C-ESD）よりも優れているかどうかを明らかにすることを目的とした。

方法：H-ESDとC-ESDの治療成績を比較する多施設共同前向き非盲検無作為化比較試験（Hybrid-G Trial）を実施した。腫瘍長軸径が20mm以下で潰瘍合併のない、分化型で粘膜内に留まるEGNを持つ患者を、H-ESDを行う群とC-ESDを行う群に無作為に割り付けた（1：1）。H-ESDには多機能スネアSOUTEN（ST1850-20、カネカ、メディックス、東京、日本）を使用した。主要評価項目は手技時間とした。副次的評価項目は粘膜切開時間、粘膜下層剥離の時間/速度、治癒率、内視鏡的手技の有害事象等とした。

結果：39例にH-ESD、40例にC-ESDが施行された。H-ESDの手技時間はC-ESDより有意に短かった（33.16 min vs 62.46 min, 比率: 0.53, 95%信頼区間 0.41-0.69, P < 0.0001 ）。粘膜切開時間は両群間に有意差はなかったが、H-ESDの粘膜下層剥離の時間および速度はC-ESDよりも有意に短縮された。その他の評価項目では両群間に差は認められなかった。

結論：H-ESDはC-ESDより有意に手技時間が短く、H-ESDとC-ESDの両方で高い治癒率と安全性が確認された。H-ESD はサイズの小さな EGN の内視鏡治療における良い選択肢となりうる。